

♪ 2月の定例会の報告をいたします。

2月は「免疫療法あれこれ」というテーマで那珂川病院緩和ケア科医師原口勝先生に講演していただきました。原口さんは前職九州がんセンターの外科部長で、その後ご自身の専門を緩和ケア領域に絞られ日々精進されています。免疫療法後ギアチェンジを余儀なくされた患者さんを通して、さまざまな免疫療法の実態を話して頂きました。

承認されているがん免疫療法

非特異的免疫療法薬	微生物 (菌類・細菌類)成分	<ul style="list-style-type: none"> ・ビシバニール®(溶連菌成分) ・クレスチン®(カワラタケ菌糸体多糖類) ・レンチナン®(シイタケ菌糸体多糖類)以上、化学療法との併用 ・ソニフィラン®(スエヒロタケ産出多糖物質)子宮頸がんに対して放射線治療との併用 ・イムシスト®、イムノブラダー膀胱注®(BCG) 膀胱がん
	サイトカイン	<ul style="list-style-type: none"> ・イムネース®、セロイク®(IL-2) 血管肉腫 腎がん ・スミフェロン®、イントロン®(IFN-α) 腎がん、慢性骨髄性白血病、多発性骨髄腫 ・インターフェロンβ® メラノーマ、脳腫瘍 ・イムノマックスγ®、オーガンマ®(インターフェロンγ) 腎がん、成人T細胞白血病、菌状息肉症
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ベスタチン®、アミノペプチターゼ阻害 急性骨髄性白血病
特異的免疫療法薬	抗体治療	<ul style="list-style-type: none"> ・トラスツズマブ(ハーセプチン®) HER2 HER2 発現乳がん ・リツキシマブ(リツキサン®) CD20 B細胞性リンパ腫
	がんワクチン	<p>予防ワクチン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B型肝炎ウイルス B型肝炎予防(肝細胞がん予防) ・Gardasil®(米国) ヒトパピローマウイルス 子宮頸がん予防 <p>治療ワクチン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Oncophage®(ロシア) ペプチド/heat-shock 蛋白複合体 腎がん ・DCVax(R)-Brain®(スイス) 自家腫瘍・樹状細胞 脳腫瘍

表1

【Q&A】

Q1 サイトカイン療法とは？

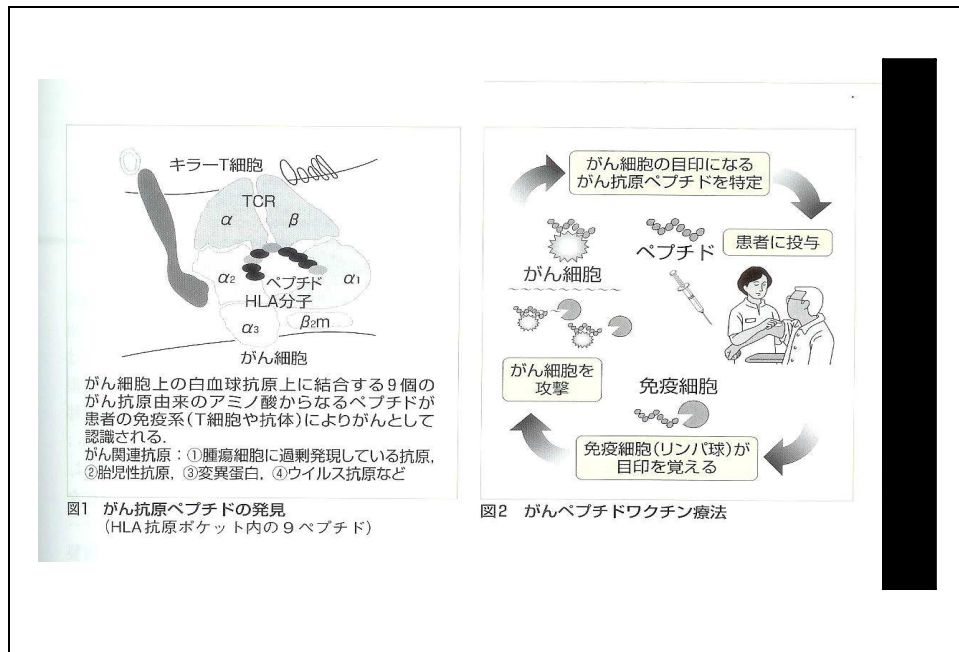
A1 1980年半ばより免疫細胞が分泌するサイトカイン分子構造が次々と解明され、それらを合成し製剤として使用する方法です。一部の腫瘍に使われています。

Q2 ハーセプチンとはどんな薬ですか？

A2 特異的免疫療法薬で抗体治療に使われます。ヒト化モノクローナル抗体で術後乳がんの再発予防に使用される分子標的薬です。

Q3 がんペプチドワクチン療法とは？

A3 図1、図2に示すように多くの腫瘍抗原が同定されリンパ球に認識されるペプチドを合成してワクチンとして患者に投与し体内でがん細胞を特異的に傷害するT細胞を誘導する治療法です。



(表1、図1、図2：がん治療 update 第138号特別号(1)日本医師会雑誌 P138-41)

Q4 活性化自己リンパ球療法とは？

A4 特異的免疫療法薬に位置づけられると思います。T細胞をがん細胞(標的)と一緒に培養し、標的を破壊するキラーT細胞を増やし、ナチュラルキラー細胞(NK細胞)の活性を高めたものを点滴する方法です。

Q5 丸山ワクチンとは？

A5 結核菌から抽出したアラビノマンナンという多糖体を主成分としているので結核ワクチンといえます。がんワクチンとの関連では、丸山ワクチン投与により結核菌に対する免疫反応が誘導され、その結果活性化されたナチュラルキラー細胞やマクロファージががん細胞に対しても殺傷能力を示します。

Q6 がん予防ワクチンは？

A6 肝臓がんを引き起こすB型肝炎ウイルスが開発され、2006年になりヒトパピローマウイルスワクチンが米国で、2011年には日本でも承認されました。性交渉が始まる頃からの若い女性に対してのワクチン投与により感染を予防し、ひいては子宮頸がん発症を予防する目的で承認されました。